

らしっく

自分らしく、粹なくらし

まちづくり・生涯学習情報誌

2008.12

春待月号

Vol.22

はるまちつき／
師走は“宴”の季節。年の
瀬の準備をしながら皆で
祝い、春への気持ちを温
め始める春待月ともいわ
れています。

特集

P1

「はじめる」

スタッフ一人ひとりの技術と熱意が施設を支える

●広島市交通科学館 ちびっこ教室インストラクター

ボランティアをすることで成長するのは自分自身

●広島市こども文化科学館 ユース・サイエンスボランティア

地域を挙げて守ってきた古くから伝わる勇壮な舞

●阿刀神楽団

私が考える「ボランティア」

●特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅーるぼん 川口隆司

らしっくキャンパス

●広島市青少年野外活動センターボランティアサークル「くわがた」

●プラザ通信・・・・・・・・・・ P5

●らしっく情報の森・・・・・・・・ P9

●ひろしま八区イベントガイド・・・・ P11



④ブーメランがうまく飛んだ!見守るのは田尾さん⑤参加した子どもたちが揃って試し投げ⑥ボールを空中で浮かばせる実験「ふわふわボール」⑦YSVおそろいのベスト



①宇品公民館でのショー。開始直前スタッフ同士で綿密な打ち合わせを行う②子どもたちを前に自己紹介するYSVスタッフ。マイクを握るのは網代さん③「空気砲」の実演。大きな段ボール箱を勢いよく叩くと煙の輪が飛び出し、子どもたちが歓声を上げる



ボランティアをすることで成長するのは自分自身

【広島市こども文化科学館 ユース・サイエンスボランティア】

**イベントを支える
若者中心のスタッフたち**

中区基町にある広島市こども文化科学館は、銀色のドームが印象的なプラネタリウムを持つ博物館です。展示テーマはその名の通り、子ども向けの科学。1〜2階は子どもたちが触れて楽しめるよう工夫された展示があり、3階は実習室や創作室、4階にはプラネタリウムがあります。

こども文化科学館では、年間を通して様々なイベントを行っています。スタッフが子どもたちの前で科学実験を行う「サイエンスショー」は人気イベントの一つ。主に土曜日、1階のサイエンススタジオで行っています。

このサイエンスショーは、ボランティアの方たちの企画により、市内

の公民館でも行っています。ここで活躍するスタッフが「ユース・サイエンスボランティア(YSV)」。

現在、学生を中心とする約50名の方が登録しています。

**子どもたちと一緒に楽しむ
自分も経験を積んでいく**

子どもたちの前でどんな実験をしてみせるかの企画を練るのは、こども文化科学館の職員とYSVスタッフの共同作業。

YSVの一人、田尾美和歌さんは大学で児童教育学を学びながら保育士を目指しています。出張サイエンスショーではリーダーも務めました。

ボランティアを始めたのは、大学で教授から「子どもとの触れ合いを経験できる場に参加してみたい」と勧められたのが直接のきっかけでした。もともと工作好きなのと子ども好きな性格が合い、月2〜3日のペースで活動しています。

「常に緊張感を持ち、人前に立つたり、子どもたちの年齢にに応じて対応する経験は貴重」。保育士になつてからもその経験が活きると確信しています。

同じくYSVの一人、網代彩加さんは大学で初等教育学科に在籍し、将来は小学校の教師を目指しています。子どもと一緒に過ごすの

●問合せ
**広島市
こども文化科学館**
ユース・
サイエンスボランティア

☎082-222-5346
住所:広島市中区基町5-83
<http://www.pyonta.city.hiroshima.jp/>

が楽しくて好きという網代さんは「ボランティアをすることで、自分の中の引き出しが増えていく感覚がある。普通の学生生活では知り合えない人ともつながりができる」と、自分にとっての魅力を実感しています。



「はじめる」

～身近なところにもある、
活動のきっかけ～

公共施設などが募集している「施設ボランティア」は、自分のできることから始められる、ボランティアへの身近な入口です。今回はそんな「ボランティアの第一歩」と、「地域とつながるきっかけ」として地元の伝統を守ることに子どもたちと一緒にとりくむ神楽団の活躍をご紹介します。

スタッフ一人ひとりの技術と熱意が施設を支える

【広島市交通科学館 ちびっこ教室インストラクター】

**約80名もの人たちが
ボランティアに登録**

安佐南区長楽寺にある広島市交通科学館は毎週末、小さな子どもがいる家族連れでにぎわっています。「乗り物と交通」がテーマのここでは、古今の車や列車など乗り物に関する企画展や工作教室が行われています。中でも子どもたちに人気なのが、幼児〜小学校1〜2年生及び保護者向けの「ちびっこ教室」。乗り物を中心とした工作を行っています。

ちびっこ教室ではインストラクターとして自主的に応募してきたボランティアスタッフが指導にあたります。交通科学館では約80名の方がボランティアスタッフの登録をしており、大人対象の工作教室の託児などでもボランティアが活躍しています。

④インストラクターが集まってちびっこ教室の打ち合わせ・研修会を行う⑤研修時はスタッフ間で工作を実践する⑥交通科学館のクラフトルームの窓に描かれた絵も、ボランティアの方の手によるもの。作者は東区在住の村上渚さん(右下)



**スタッフ同士で企画を出し
技術のある人が講習する**

ちびっこ教室でどんな工作をするかは、スタッフが事前に打ち合わせを行い、アイデアを出し合います。また、実際に作ってみる研修会も行われます。そこではかつて機械メーカーで働いていた方など、技術や知識を持つ人が指導的な役割に立つこともあります。

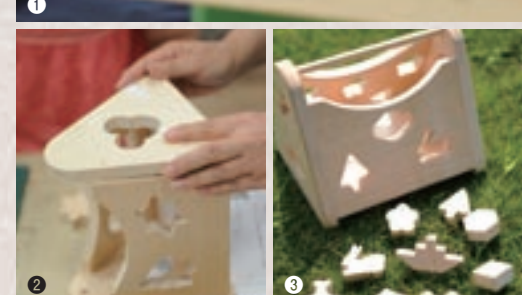
ボランティア登録をして10年の向井田さよ子さんは、家が安佐南区沼田町にある建具店。木工はお手のものです。その技術を活かして、廿日市市内の木工教室で5年間講師を務めていたこともあります。家から店舗に通う時に近くを通るため、以前から交通科学館を身近に感じていたところ、新聞でボランティアを募集しているのを見つけて応募。年に3〜4回インストラクターとして活躍しています。

●問合せ
広島市交通科学館
ちびっこ教室
インストラクター

☎082-878-6211
住所:広島市安佐南区長楽寺2-12-2
<http://www.vehicle.city.hiroshima.jp/>

クラフトの経験のある向井田さんは交通科学館としても頼れる人材。ちびっこ教室では、クラフト用紙や、使用済みフィルムケース、ペットボトルなどを使って様々なジャンルの工作を行います。木工の研修会では向井田さんが講師となり、他のスタッフを指導します。

「何よりも自分が楽しい。うまくできたとまわりの人が喜んでくれたらさらにうれしい」。向井田さんがボランティアを続ける理由です。



①木工の時は講師役を務める向井田さん。他のスタッフとも和気あいあい②取材時に作っていたのは幼児用のパズル。木をくりぬき、形の合ったパーツを中へ入れて遊ぶ。向井田さんのオリジナル作品③完成するとこんな形に

13年前の1995年1月、兵庫県南部に大きな被害をもたらした「阪神・淡路大震災」。倒壊したビル、家を失って避難所生活をする人たち：映像を通して刻々と伝えられる現地の状況に「これは大変だ。ほっとけない。何か自分も力になりたい」という思いで一日平均2万人以上、災害発生後3ヶ月間で延べ117万もの人が被災地を訪れ、救援物資の仕分け・運搬、避難所での炊き出し話し相手から行き場を失ったペットのケア等々まで多様な支援活動を行ったといわれます。

この時多くの人々が活動に込めた思いやそこから生まれた教訓は、現在も街に住む人々の心に受け継がれ、町内会や自治防災組織の運営などに活かされています。私たち人間は、人や社会、自然に対して「共感」する心を持っています。そしてその「共感」が自分自身を奮い立たせ「行動」へとつながります。その「行動」は誰に命令されるのでもなく、心の中から「自発的」に始まるのです。



私が考えるボランティア「心」がつなぐ「行動」

第1回 らしくコラム

こちらのコーナーでは、広島市で活動されている団体代表の方に市民活動やボランティアに対する思いをお聞きしています。みなさんの思いと重なり、活動の輪が広がることを願って…。

自己紹介

川口隆司

●所属団体● 特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅーるぼん
●活動内容● 子どもの支援・福祉・街づくりボランティア
●活動のきっかけ● 中学校時代にあっていたアグネス・チャンさんの影響
●現在の状況● 遊びを通して子どもたちの育ちを支援する「じゃんけんぼん」、花とアートで地域をつなぐ「ぼんぼん」、この二つのコミュニティほっとスペースで仲間・ボランティア・地域とともにゲラゲラ笑いながら過ごしています。



地域を挙げて守ってきた古くから伝わる勇壮な舞

あとかぐらだん
[阿刀神楽団]

変えることなく守り続ける「伝承したまま」の形
阿刀神楽は、毎年10月15日に一番近い日曜の前日、安佐南区沼田町にある阿刀明（あともやう）神社に奉納される神楽です。広島市西部を含む太田川流域に伝わる「十二神祇（じんにぎ）」と呼ばれる系統の神楽で、全部で12の演目があります。
芸北神楽や石見神楽は戦後、新舞（しんまい）と呼ばれる演劇性の強い神楽を生み、派手な動きで観客を楽しませるものへと発展しました。一方、阿刀神楽は、柔術の型を取り入れた舞の手や、他の十二神祇の神楽団でもほとんど舞うことがなくなった、託宣（たくせん）（神のお告げ）舞を受け継ぎ、古い時代の形式を守っています。

なかでも柔術の型を取り入れた舞は阿刀神楽独自のもので、江戸時代後期に山口から阿刀に移り住んだ武術家が指南したといわれています。また、託宣舞は失寸前になるまで舞うという激しいもので、気力体力ともに充実した若い演者が舞います。11番目の演目の「世鬼（せき）の舞」の衣装は重さ約40kg。着るだけでも大変なこの衣装は、1960年代に作られたものです。が、今も大切に使い続けています。

秋の奉納を終えた阿刀神楽団の次の出番は、中区の旧日本銀行広島支店で行われる「実演！！市内神楽団（12月7日〜23日の日祝日）です。14日（日）の夕方、出演する予定です。

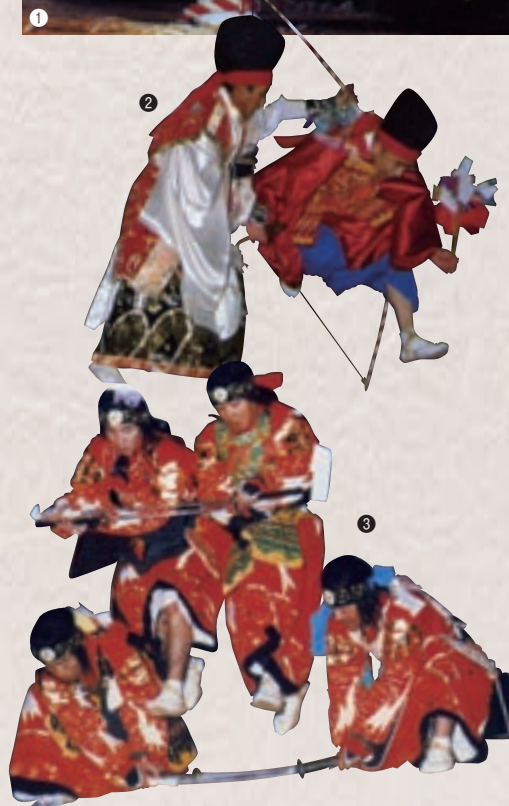
●問合せ

あとかぐらだん
阿刀神楽団

☎082-839-2719

（阿刀神楽団団長 岩森憲雄）
広島市安佐南区沼田町阿戸
<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~bunkazai/>

④平成10年（1998年）3月、阿刀明神社近くに「阿刀神楽伝承館」を建設。中に設けられた神楽殿で稽古する⑤「世鬼の舞」の衣装を見つめる岩森さん。団員に着せるときは2人がかりで、それでも20分はかかる



①「世鬼の舞」。衣装の背中には大きな翼が付けられている②12番目の演目は託宣舞のある「將軍の舞」。別名「死に入り」とも呼ばれ、古くから残っている舞③10番目「所望分けの舞」はさらに5つの舞で構成されるが、中でも一番動きが激しいと言われるのが「八つ花の舞」。4人の王子が決戦のため修行に励む場面

らしくキャンパス

学生から見た学生による市民活動紹介

レポーター

広島市立大学 マスコミ研究会
児玉 健一、伊佐 まゆみ、
山本 大輔、原田 靖子

広島市青少年野外活動センター
ボランティアサークル
「くわがた」
代表 中原 美香さん

第二回目の「らしくキャンパス」は、広島市青少年野外活動センターで活動をしているボランティアサークル「くわがた」をご紹介します。今回は代表の中原さんにお話を伺いました。

「くわがた」は野外活動センターでの行事全般の補助、運営を行っているサークルであり、野外活動センターで行われる行事すべてのお手伝いはもちろん企画立案までもこなす、縁の下の力持ち的な活動を行っています。中原さんが「くわがた」と出会ったきっかけは大学で聞いた野外活動センターでのボランティア講座についての説明会だったそうです。将来小学校の先生を目指しており、子どもたちと触れ合うことのできるようなボランティアに興味のあった中原さんはその講座に参加し、その中で「くわがた」について知り、興味を持っていきました。

「活動を通じ子どもたちの笑顔や成長の様子を見たとき、自分もうれしくなります。人のために何かをする。そのことにとてもやりがいを感じます。

また、保護者の方から子どもさんを預かっているの、健康管理には特に気をつけています。活動の中での主役はあくまでも子どもなので干渉すぎない。見守る、補助をするというスタンスを心掛けています。」と中原さんは話します。「どのようなボランティアでも得るものがあると思うし、他の活動にも興味がありますが、自分はこちらの活動が忙しくて他の活動には手が回せません。今は、一生懸命『くわがた』に参加してくれている子どもたちに、家の中では学べない、自然の中でしか学べないことを感じてもらえる活動を行っていきたいと思っています。また、子どもたちはいろいろな学校から集まったりするので、友達の輪を広げていって欲しいとも思います。でも一番感じてほしいのは大人が手助けしなくても自分たちだけでできる!という達成感と自信。これを子どもたちには味わってほしい。」そんな願いで楽しみながらボランティア活動を行っています。

取材をさせていただいた中原さん、本当にありがとうございました。

